



旭市子ども読書活動推進計画 (第2次)を策定

平成28年度に策定した第1次計画が、令和2年度をもって終了することから、新たに第2次となる「旭市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

子どもの発達段階に合わせた読書活動は、豊かな人間形成に関わり、人生をより深く生きる力を身に付ける上でとても大切な取り組みとなります。

子どもが本と関わる機会を増やすために取り組むべき目標を中心に、計画の概要を紹介します。

基本理念と目標

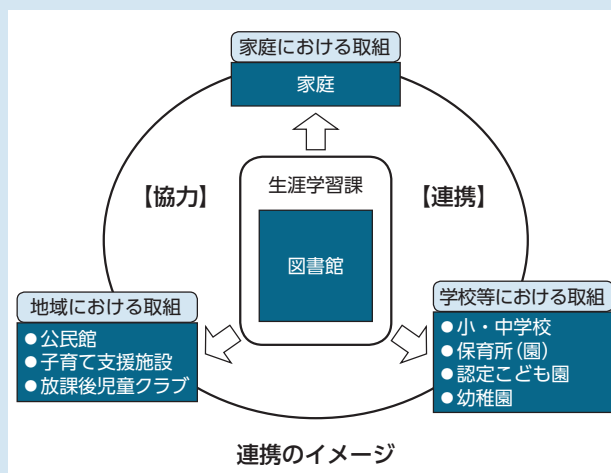
～「読みたい 知りたい 調べたい」子どもと本をつなぐ環境づくり～を基本理念とし、次の3つの目標を定めました。この目標を達成するために、家庭、地域、学校などが連携し、市全体で子どもの読書活動を支えていく体制をつくります。

●家庭での読書習慣

乳幼児のころから本を読むのが楽しいと感じ、好きになれるよう、親子での読み聞かせや、家庭での読書(家読)を勧めていきます。

●発達段階に応じた読書

生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しめるよう、



乳幼児や児童生徒の一人一人の発達段階と読書体験に合わせた取り組みを進めます。

●いつでも本を手にとることができる環境

本がいつでもどこでもそばにあり、それを手渡せる大人がいる読書環境を整備します。

市図書館の役割

子どもの読書活動の中心的な役割を担うのが、市の図書館です。7月10日に県立東部図書館内へ移転し、新たな地域の情報拠点としてオープンしました。今後も小中学校や保育所などへの図書の貸し出しや、保護者や教職員、ボランティアへの支援体制を整備し、本を好きになるきっかけをつくっていきます。



山本力蔵は本業のしょうゆ醸造の傍ら、若くして香取郡小見川町町長になり、数々のアイデアで町を発展させました。

明治40(1907)年、旭町成田でしょうゆ醸造を営む「飯田本店」の四男として生まれ、幼名は広造といい、後に實と改めました。

20歳の時に、小見川でしょうゆ醸造を営む大村屋の婿養子になり、醸造の研究をしたり、中国でしょうゆ関連の会社を設立したりするなど、精力的に活動しました。

昭和21(1946)年、二代目山本力蔵を継いだ後に、39歳の若さで小見川町の町長になりました。町長としての業績は、小見川町営野球場にプロ野球の試合(巨人対国

鉄)を誘致し、この試合では日本でただ一人400勝を達成した、金田投手も出場しました。また、小見川大橋の開通、工業団地の造成、国保小見川中央病院の設立、利根川の治水対策など、町を発展させようと次々にアイデアを出し実行していきました。19年間町長を務めましたが、住民感覚で町政を行い、人のつながりや世話になった人を大事にすることを忘れたそうです。昭和29(1954)年に千葉県町村会長、その後、全国町村会長に就任して、その手腕を振るいました。

また、昭和41(1966)年には、優れた人格と高い見識により、政府より新東京国際空港公団(成田国際空港)の副総裁に就任するよう依頼されました。この頃の空港は激しい反対運動が起こっており、数々の苦難が続いていましたが、用地買収や騒音などの問題に、先頭を切って、地域住民と積極的に対話を重ねていきました。

それらの功績が認められ、勲三等旭日中綬章を受章し、小見川町名誉町民になり、平成5(1993)年には小見川町役場(現香取市小見川支所)内に顕彰碑が建てられました。



山本力蔵顕彰碑